



2027年3月期 **第1四半期** **決算補足説明資料**

東証プライム 9936

株式会社王将フードサービス

2026年7月31日

© 2026 OHSHO FOOD SERVICE CORP.

2027年3月期 第1四半期 決算概要

前年反動により減収減益となるも、売上高は前々年同期比+6.8%

前年同期のメディア露出による売上増の反動減、デリバリー需要の落ち着き、物価高騰に伴う消費者の節約志向が影響
一方、売上高は前々年同期比+6.8%と、2年前を上回る水準を確保

連結売上高

28,214百万円

前年同期比

▲4.9%

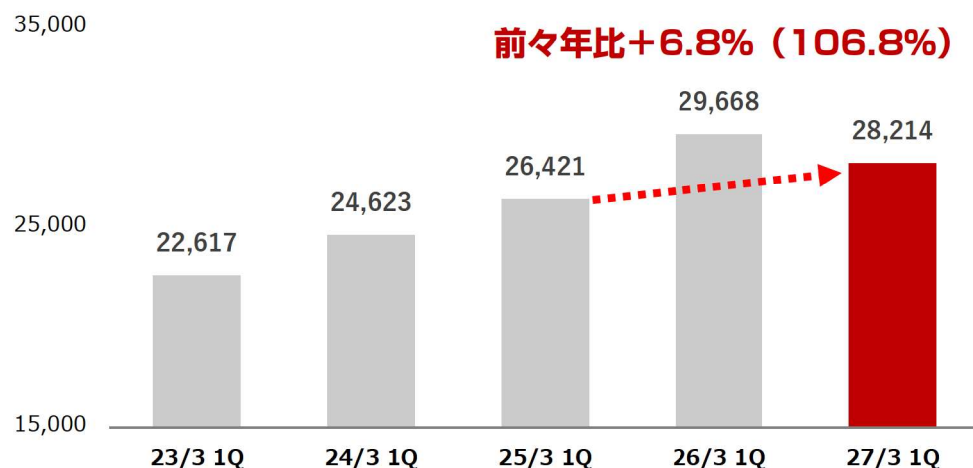
連結営業利益

1,415百万円

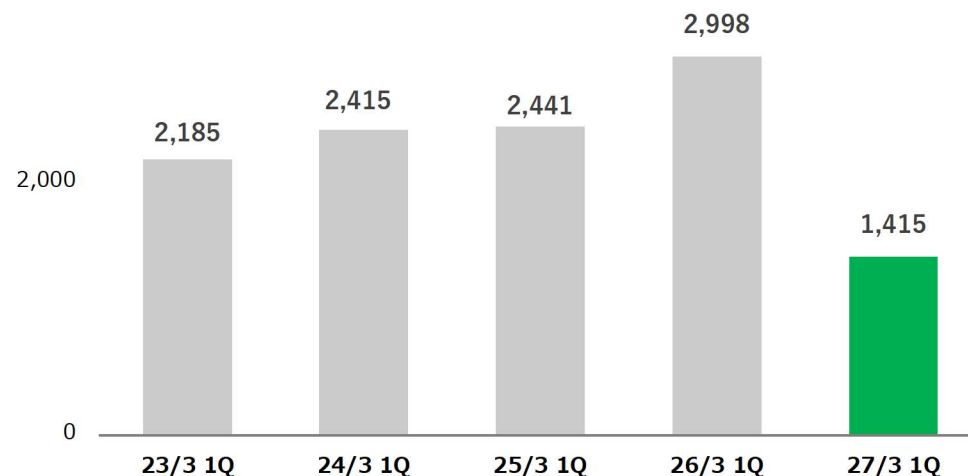
前年同期比

▲52.8%

連結売上高（第1四半期比較／百万円）



連結営業利益（第1四半期比較／百万円）

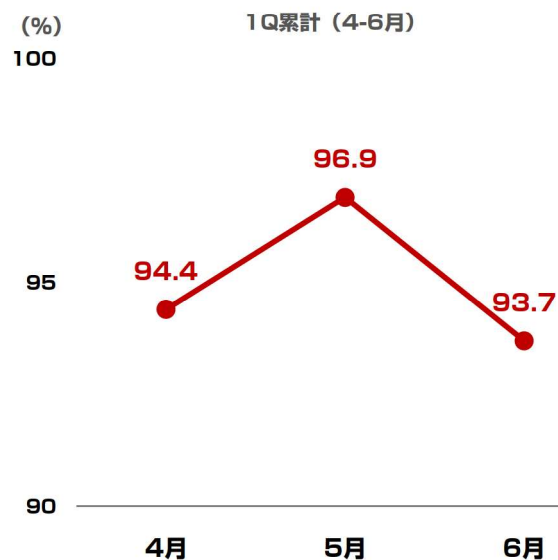


既存店も同様の傾向で推移

前年同期のメディア露出の反動やデリバリー需要の落ち着き等により既存店売上・客数・客単価はマイナス

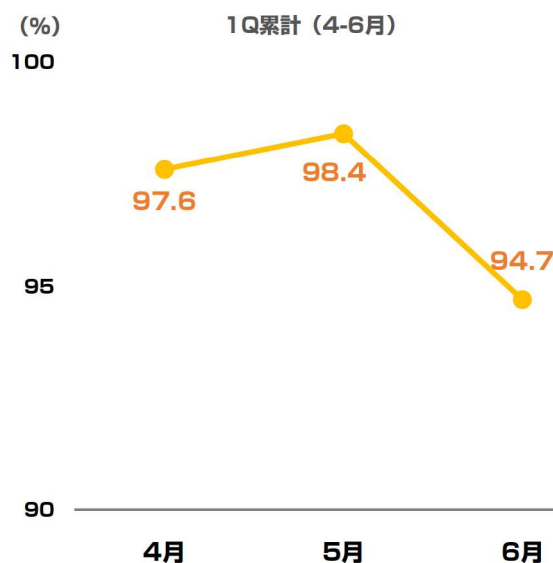
既存店売上高（前年同期比）

▲4.9%



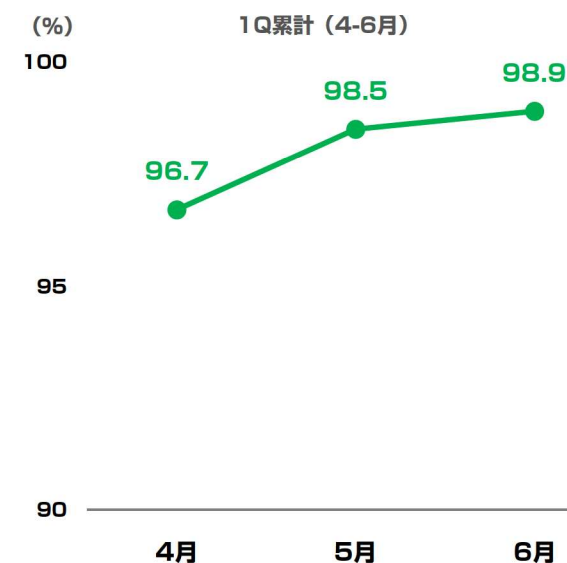
既存店客数（前年同期比）

▲3.1%



既存店客単価（前年同期比）

▲1.9%



※ 既存店の対象店舗は、新規開店店舗15カ月以内の店舗及び前年・本年同月の改装店舗を除いた店舗。

2027年3月期 第1四半期 損益計算書概要

(百万円)

	25/3期 1Q 前々年	26/3期 1Q 前年	27/3期 1Q 当期	前年 同期差	前年 同期比	前々年 同期比
売上高	26,421	29,668	28,214	▲1,454	95.1%	106.8%
店内飲食	17,813	20,539	19,778	▲761	96.3%	111.0%
テイクアウト・デリバリー	6,300	6,580	5,977	▲603	90.8%	94.9%
FC出荷売上	2,209	2,432	2,320	▲112	95.4%	105.0%
売上原価	8,345	9,593	9,289	▲304	96.8%	111.3%
売上総利益	18,076	20,074	18,924	▲1,150	94.3%	104.7%
売上総利益率	68.4%	67.7%	67.1%	▲0.6pt	—	—
販管費	15,635	17,076	17,509	+433	102.5%	112.0%
販管費率	59.2%	57.6%	62.1%	+4.5pt	—	—
営業利益	2,441	2,998	1,415	▲1,582	47.2%	58.0%
営業利益率	9.2%	10.1%	5.0%	▲5.1pt	—	—
経常利益	2,576	3,113	1,608	▲1,505	51.6%	62.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,702	2,134	988	▲1,146	46.3%	58.1%
1株当たり四半期純利益 (EPS)	30.15円	39.23円	18.81円	▲20.42円	—	—

2027年3月期 第1四半期 損益計算書概要（四半期別）

（百万円）

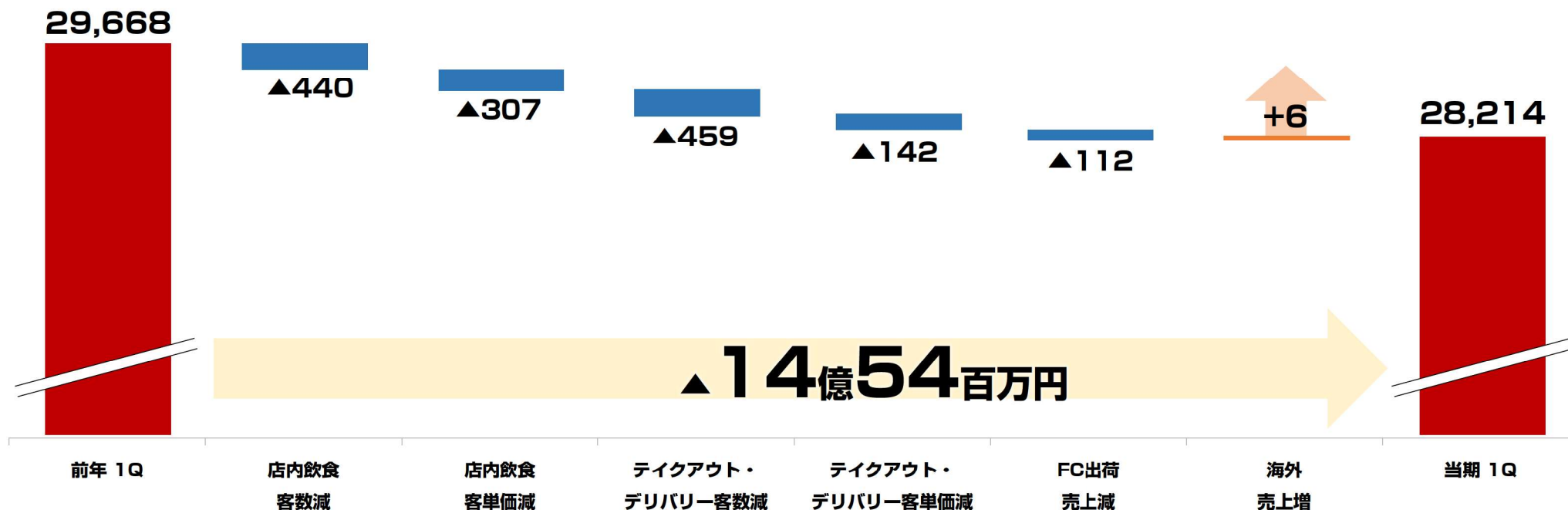
	2025/3期				2026/3期				2027/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	26,421	27,457	27,565	29,588	29,668	28,835	28,774	29,560	28,214
店内飲食※1	17,813	18,543	18,656	20,218	20,539	20,071	19,920	20,650	19,778
テイクアウト・デリバリー※1	6,300	6,535	6,434	6,857	6,580	6,304	6,247	6,361	5,977
FC出荷売上※1	2,209	2,260	2,353	2,386	2,432	2,347	2,475	2,423	2,320
売上総利益	18,076	18,876	18,631	20,017	20,074	19,502	19,368	19,970	18,924
営業利益	2,441	2,806	2,346	3,310	2,998	2,316	2,312	2,783	1,415
利益率	9.2%	10.2%	8.5%	11.2%	10.1%	8.0%	8.0%	9.4%	5.0%
経常利益	2,576	2,893	2,416	3,425	3,113	2,349	2,404	2,835	1,608
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,702	1,943	1,560	2,865	2,134	1,521	1,553	2,261	988
利益率	6.4%	7.1%	5.7%	9.7%	7.2%	5.3%	5.4%	7.6%	3.5%
1株当たり四半期純利益（EPS）※2	30.15円	34.41円	27.62円	50.71円	39.23円	29.06円	29.64円	42.92円	18.81円

※1: 国内店舗 ※2: 2024年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割。1株当たり四半期純利益は分割後の株数で遡及修正。

メディア露出の反動、デリバリー需要の落ち着き、節約志向により客数・客単価とも減少

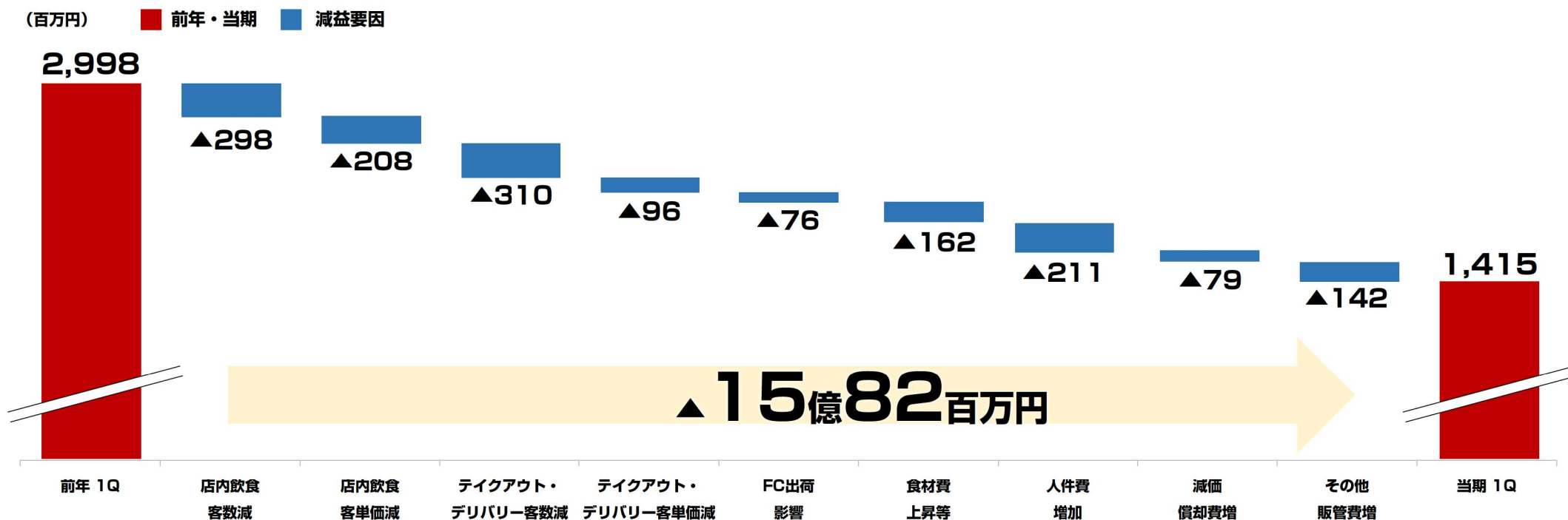
売上高は前年同期比14億54百万円減（▲4.9%）の282億14百万円

(百万円) ■ 前年・当期 ■ 減収要因 ■ 増収要因



売上高の減少に加え、原材料価格や人件費の上昇などにより減益

営業利益は前年同期比15億82百万円減（▲52.8%）の14億15百万円



2027年3月期 第1四半期 バランスシートの状況

配当金の支払い等により現預金と純資産が減少した一方、成長投資や株主還元を支える強固な財務基盤を維持
総資産は前連結会計年度末比1,742百万円減の83,345百万円

資産の部

(百万円、%)	2026/3月末 金額	2026/6月末 金額	増 減
流動資産	29,833	27,847	▲1,986
現金預金	24,527	22,812	▲1,715
固定資産	55,253	55,497	+244
有形固定資産	40,426	40,707	+281
建物及び構築物	15,733	15,917	+184
土地	19,902	19,902	—
無形固定資産	531	810	+280
投資等	14,295	13,979	▲316
投資有価証券	4,447	4,001	▲445
差入保証金	4,637	4,661	+24
貸倒引当金	▲13	▲13	+0
資産合計	85,087	83,345	▲1,742

負債・純資産の部

(百万円、%)	2026/3月末 金額	2026/6月末 金額	増 減
流動負債	15,606	15,229	▲378
1年内長期借入金	2,000	2,000	—
固定負債	4,410	3,934	▲476
長期借入金	1,000	500	▲500
負債合計	20,017	19,163	▲854
株主資本	64,269	63,786	▲483
資本金	8,166	8,166	—
資本剰余金	9,026	9,026	—
利益剰余金	64,667	64,185	▲483
自己株式	▲17,591	▲17,592	▲0
その他の包括利益累計額	800	395	▲405
純資産合計	65,069	64,181	▲888
負債・純資産 合計	85,087	83,345	▲1,742

2027年3月期 第1四半期 キャッシュ・フローの状況

安定した営業キャッシュ創出力を背景に成長投資を継続し、フリーキャッシュ・フローはプラスを維持
前期1Qの財務活動によるキャッシュ・フローには自己株式取得14,490百万円が含まれる（当期1Qは該当なし）

（百万円）	2026/3期 1Q	2027/3期 1Q
営業活動によるCF	+2,989	+1,530
税金等調整前四半期純利益	+3,199	+1,575
減価償却費	+768	+864
法人税等の支払額	▲1,707	▲1,478
投資活動によるCF	▲1,286	▲1,275
有形固定資産の取得による支出	▲1,218	▲844
フリーキャッシュ・フロー	+1,703	+255
財務活動によるCF	▲16,572	▲1,971
借入金等の増減額（▲は減少）	▲500	▲500
自己株式の取得による支出	▲14,490	▲0
配当金の支払額	▲1,582	▲1,470
現金及び現金同等物の増減額	▲14,882	▲1,715
期末現金及び現金同等物	23,237	22,812

通期18店舗（純増16店舗）の出店計画を推進し、東日本エリアを中心とした出店戦略を加速

2027年3月期 通期計画（期初公表内容）

	直営	FC	合計
新規出店	15	3	18
閉店	1	1	2
純増	+14	+2	+16
期末店舗数計画	—	—	744

出店方針

一都三県を中心に東日本エリアの出店を強化
既存店改装と両輪で量と質の成長を追求

新規出店スケジュール（7月末現在）

単位：店舗

月 (予定)	直営		FC	
	出店都府県	店舗数	出店都府県	店舗数
4月	京都府：洛北阪急スクエア店 台湾：台中漢神洲際店	2	—	0
7月	—	0	埼玉県：国道17号北上尾店	1
9月	滋賀県	1	—	0
10月	千葉県	1	埼玉県	1
11月	東京都・神奈川県・大阪府※	3	大阪府	1
12月	福岡県・北海道※	2	愛知県（2件）	2
3月	東京都・大阪府・千葉県※	3	—	0
	直営合計	12	FC合計	5

※3店舗を除き賃貸借契約締結済み

2027年3月期は成長投資7,962百万円（前期比+3,575百万円）を計画

新店・既存店改装・工場投資、DX投資を主軸に成長加速に向け過去最大規模の投資を実行

1Q実績は投資総額1,452百万円（進捗率18.2%）

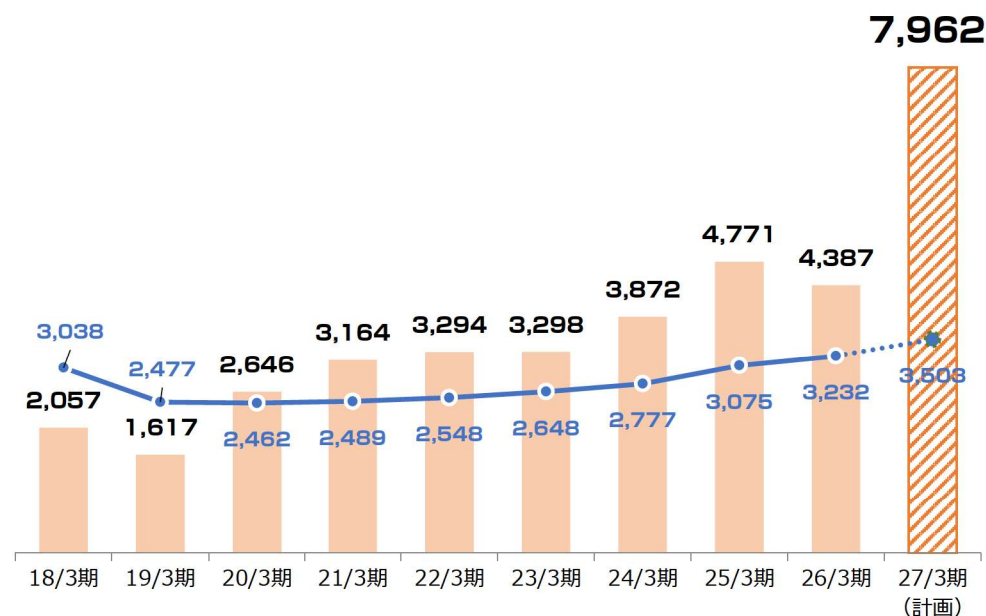
設備投資の実績と計画（百万円）

	2027/3期 通期計画	2027/3期 1Q実績	進捗率	投資実績
新店投資	1,932	87	4.5%	洛北阪急スクエア店（京都府）
既存店改装投資	4,333	814	18.8%	大型改装2店舗 ・イオン東札幌店（北海道） ・二俣川駅前店（神奈川県） その他64店舗
工場投資	630	224	35.6%	餃子成形機導入（札幌工場） 機械設備更新（春日井成形拠点） 製造室改修（久御山工場）等
その他 （本社・IT・DX等）	1,065	326	30.6%	日本橋浜町 新事務所 DX投資（ホストシステム刷新、 AI導入、テイクアウトモバイル オーダー改修等）
合計	7,962	1,452	18.2%	前年同期835 → 1,452（+617）

設備投資計画と減価償却費の推移

（百万円）

設備投資額 減価償却費



第2四半期以降の 主要施策

● 季節限定商品の継続的な開発・販売

- ・7月3日より当社初の季節限定餃子「夏餃子」を販売（旬の国産大葉×柚子胡椒酢）
- ・7月22日より「夏ラーメン」を販売、「夏餃子」とのセットメニューも展開
- ・全テーブルへのPOP設置、おすすめ動画の活用、店舗別販売目標でおすすめ販売を強化

● 生ビール販売強化

- ・温度管理を徹底し、ジョッキを氷水に通してキンキンに冷えた状態で提供
- ・サーバーメンテナンス、ガス圧調整チューブ洗浄の徹底で品質向上
- ・提供スピードとお声がけの徹底により、餃子との親和性を活かした追加注文を促進

**餃子カテゴリー全体の
販売実績にもプラスの効果**

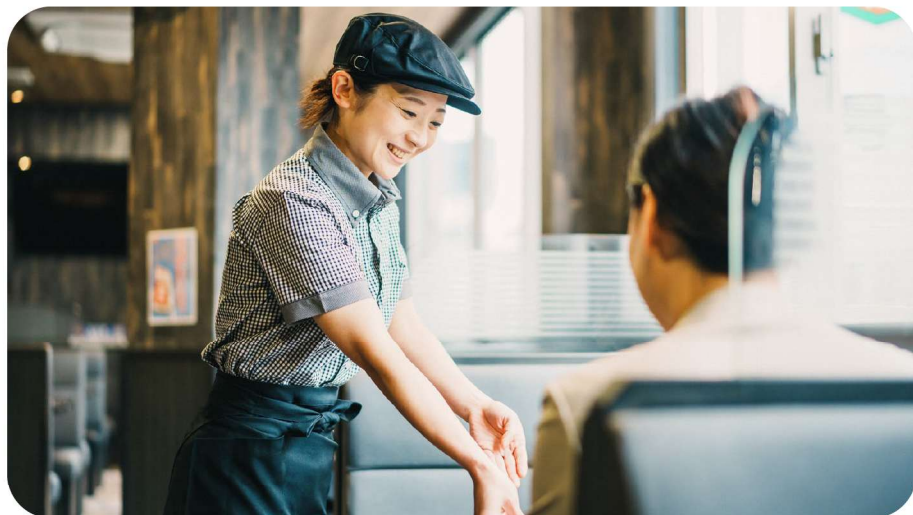
最大の強みである餃子に
「季節感」という新たな価値を付加。
効果を検証しながら
季節ごとの商品開発を継続する。



タイムパフォーマンス改善による売上・客数の向上

1 ご案内時間の短縮・客席稼働率の向上

- 商業施設内、駅前型、ロードサイドの各立地特性に合わせ、需要の高い店舗を中心に、人員配置、シフト体制を整備
- 一部店舗でカウンター席への優先案内を導入し、案内スピードと稼働率を向上
- ピーク時に洗い場、下げ台を滞留させないオペレーションを徹底し、片付けからご案内までの時間を短縮



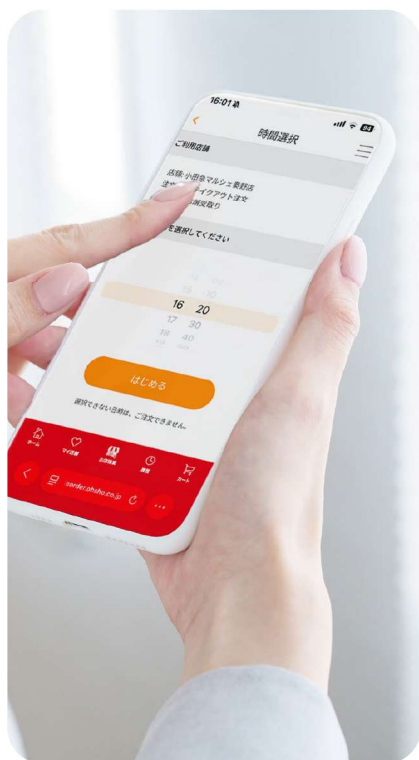
2 料理提供スピードの向上

- 厨房内のオーダー管理、各ポジションの役割・作業方法を見直し、ピーク時に集中する作業を仕込み工程へ分散し、作業方法、調理器具の見直しと標準化を進める
- 餃子レンジの増設による調理能力の向上と4種類の餃子に対応したオペレーションの改善により、提供時間の短縮と販売機会の拡大を図る
- 調理レシピを改良し、品質と生産性向上を両立



テイクアウト売上向上のため、モバイルオーダーの利便性向上・利用拡大

注文画面の見やすさと操作性を改善し、利用者の利便性向上、途中離脱の抑制、再利用の促進および購入単価の向上につなげる



① 受取予約時間の細分化

- モバイルオーダーによる最短受取可能時間を短縮
- 予約時間を分散させ厨房での調理と店頭での受け渡しを効率化

② 店舗を選びやすく・再利用促進

- 店舗外観画像の掲載
- 前回注文店舗の表示
- 近隣店舗とお気に入り店舗の切替機能

③ 注文画面導線の改善

- メニュー表示を1列から2列に変更し、1画面あたりの表示数を拡大
- 画面スクロールでメニューカテゴリーを切り替えられるよう、操作性を改善
- アプリから店舗選択画面への直接遷移可能へ

④ おすすめ・追加注文機能の追加

- おすすめ商品をメニュー選択画面のトップに表示
- 注文確定前（カート確認時）に、おすすめ商品の追加注文を促す機能を導入

店内モバイルオーダーの導入

お客様の注文利便性向上と店舗オペレーションの効率化に向け、8月より10店舗で先行導入
効果を検証しながら順次展開

店内モバイルオーダー

8月より10店舗で先行導入



1 注文機会の拡大と利便性向上

お客様自身がスムーズに注文できる環境を整える

2 従業員の業務負荷軽減

注文受付にかかる業務負荷を軽減し、
料理提供や接客など付加価値の高い業務へ振り向ける

3 サービス品質と店舗生産性の向上

双方を同時に高め、客数・食点数の拡大につなげる

成長戦略の柱のひとつにするべく「海外事業室」を新設

海外での事業基盤の拡大に向けた体制強化を推進

- ・台湾では、2026年4月に台湾・台中市に初出店となる「餃子の王将 台中漢神洲際店」をオープン
- ・新天地となるオーストラリア・シドニーでの日本発のファストカジュアル型餃子ダイナーの展開という新たな挑戦を見据え、同年8月に100%子会社の設立を予定

台中漢神洲際店（台湾）



ファストカジュアル型餃子ダイナーの展開（オーストラリア）



第2四半期以降の施策効果を見込み、上期・通期計画を維持

2027年3月期の業績予想は維持

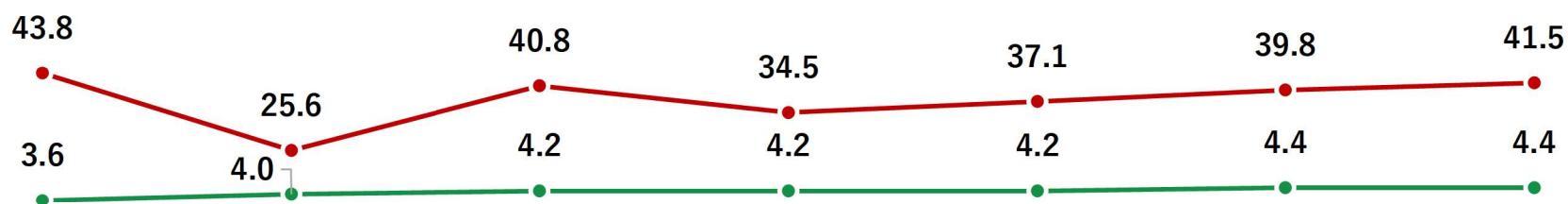
現在取り組んでいる各種施策の効果は、第2四半期以降、本格的に業績へ寄与する見込み

(百万円)

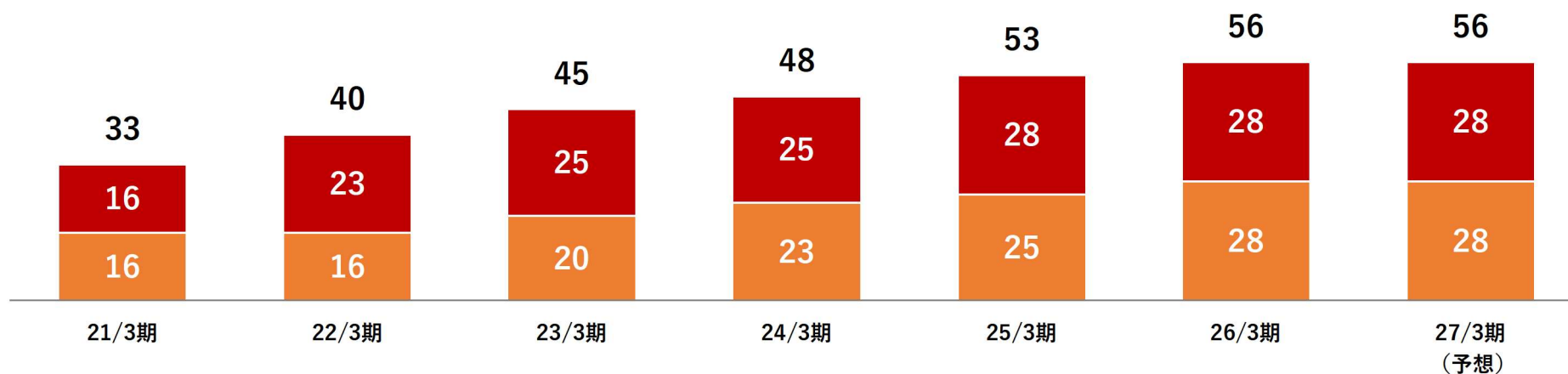
	1Q実績	上期計画	上期 進捗率	通期計画	通期 進捗率
売上高	28,214	60,179	46.9%	121,357	23.2%
売上総利益	18,924	40,336	46.9%	81,581	23.2%
営業利益	1,415	4,902	28.9%	10,951	12.9%
営業利益率	5.0%	8.1%	—	9.0%	—
経常利益	1,608	5,045	31.9%	11,036	14.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	988	3,257	30.3%	7,096	13.9%
1株当たり当期純利益	18.81円	62.01円	30.3%	135.09円	13.9%

過去最高となる年間配当56円を維持し、DOEを意識した安定的な株主還元を継続

--- 配当性向 (%) --- DOE (%)



■ 1株当たり中間配当金 (円) ■ 1株当たり期末配当金 (円) 合計



*2024年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割。25/3期以前の1株当たり配当金の算出は分割後の株数で遡及修正

- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。

お問い合わせ先

広報IR部

部長	稲垣 雅弘
副部長	宮尾 尚
課長	相川 隆

E-mail : ir@ohsho.co.jp